へ13
3735
27

門 へ13
號 3735
卷 27

明かす墨跡の
うらかけ

柳亭種彦
國貞画

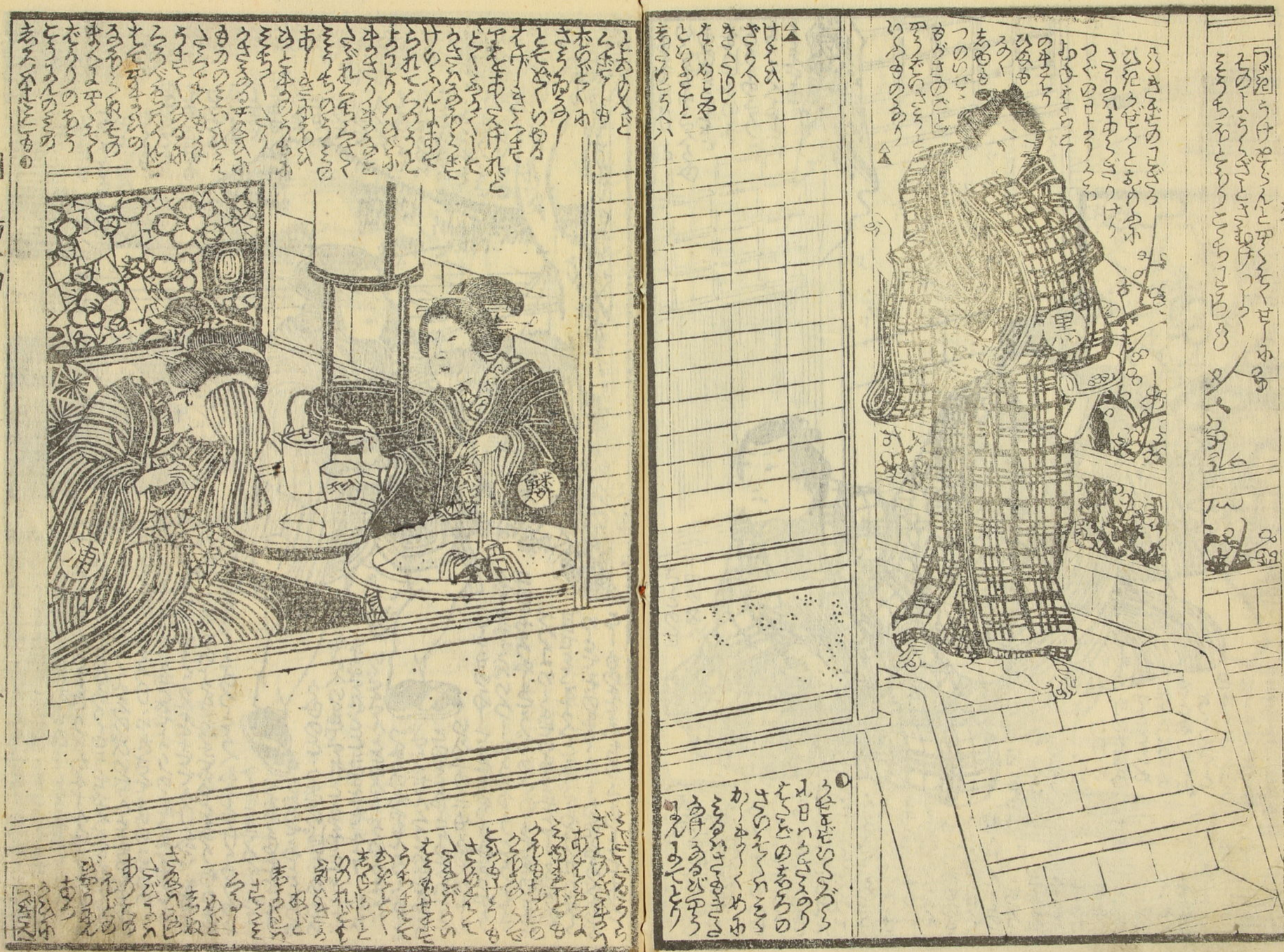
十四ノ冊上

且明まるてゝ初鳥の羽色を擬せ油
烟墨の新しきを摺流しさる硯海沖見ハ浦里の
庚詞とハ故人春馬の遺ハ解き氷の若水ハ泳て
未乾ぬ袖もゝ脚を洗ふ復本の白と黑との善惡
分明其大詰をまゝの内〳〵速々作けとの主顧方の
芳命ハ力を兄方ハ吉書始ふとゝ筆の毛卯
の正月元旦

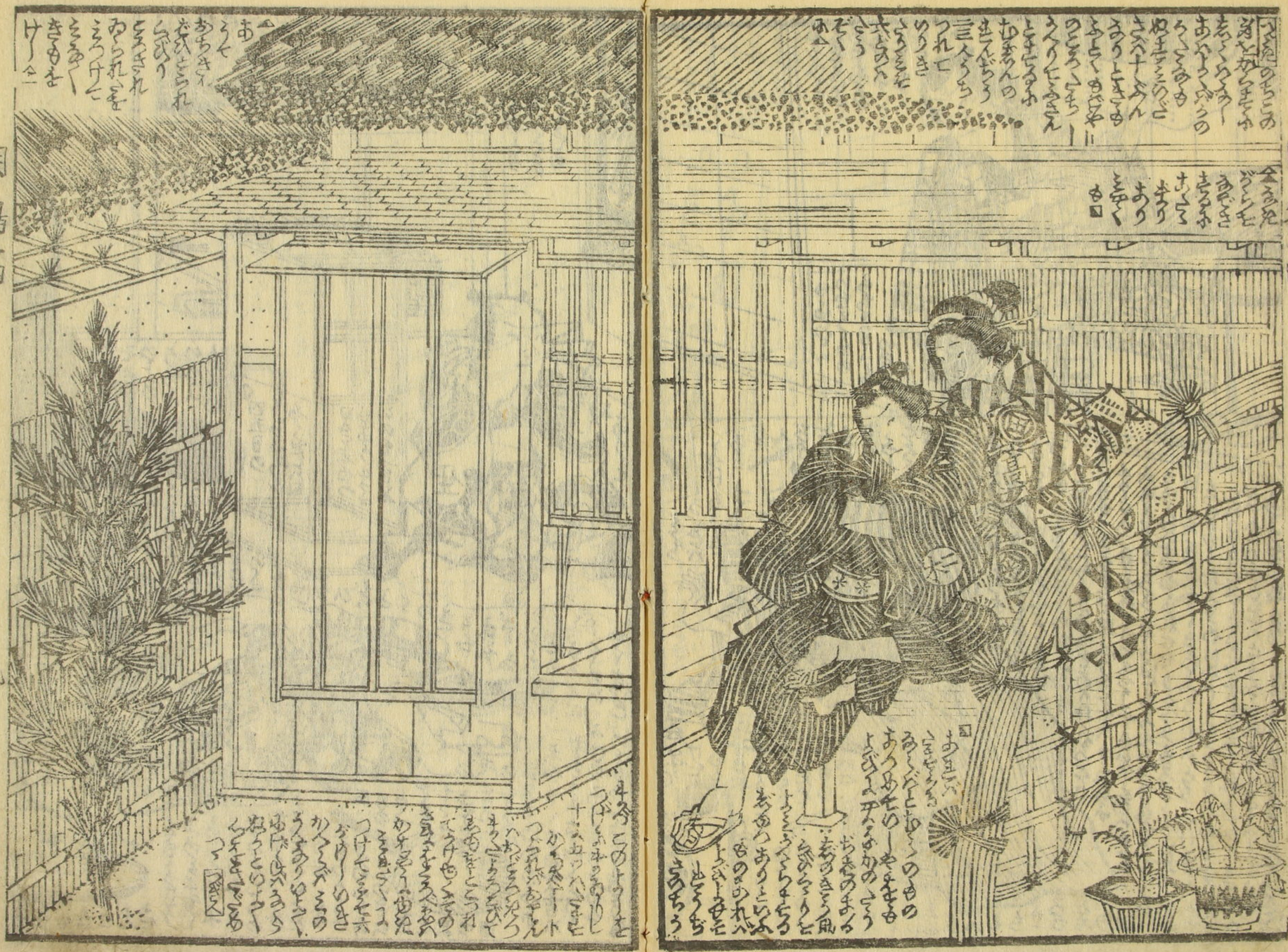
柳亭種彦
自叙

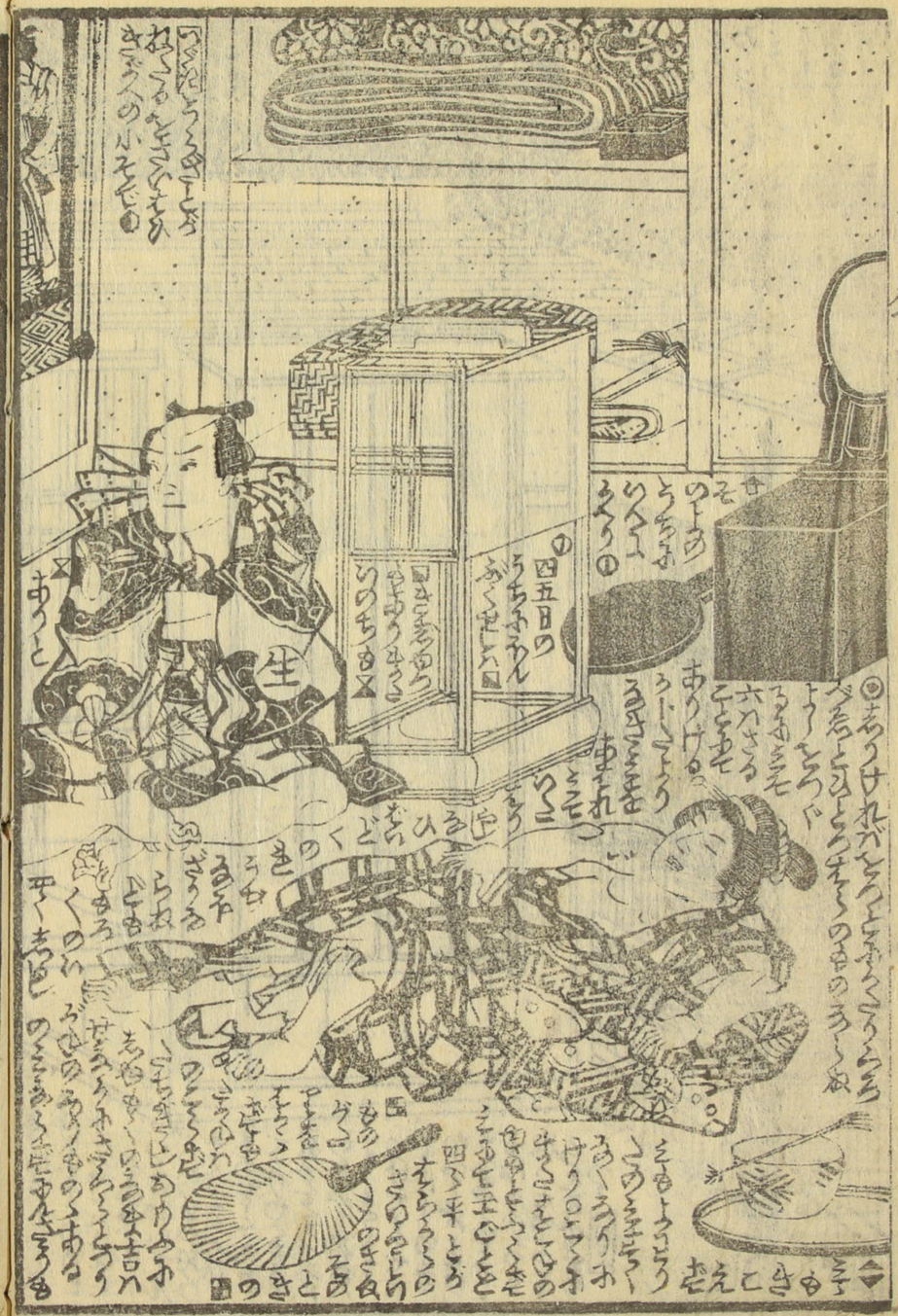
鐔市下巷ゝそ時てゝとの
お造酒十五ゝんゝそゝぎとゝ

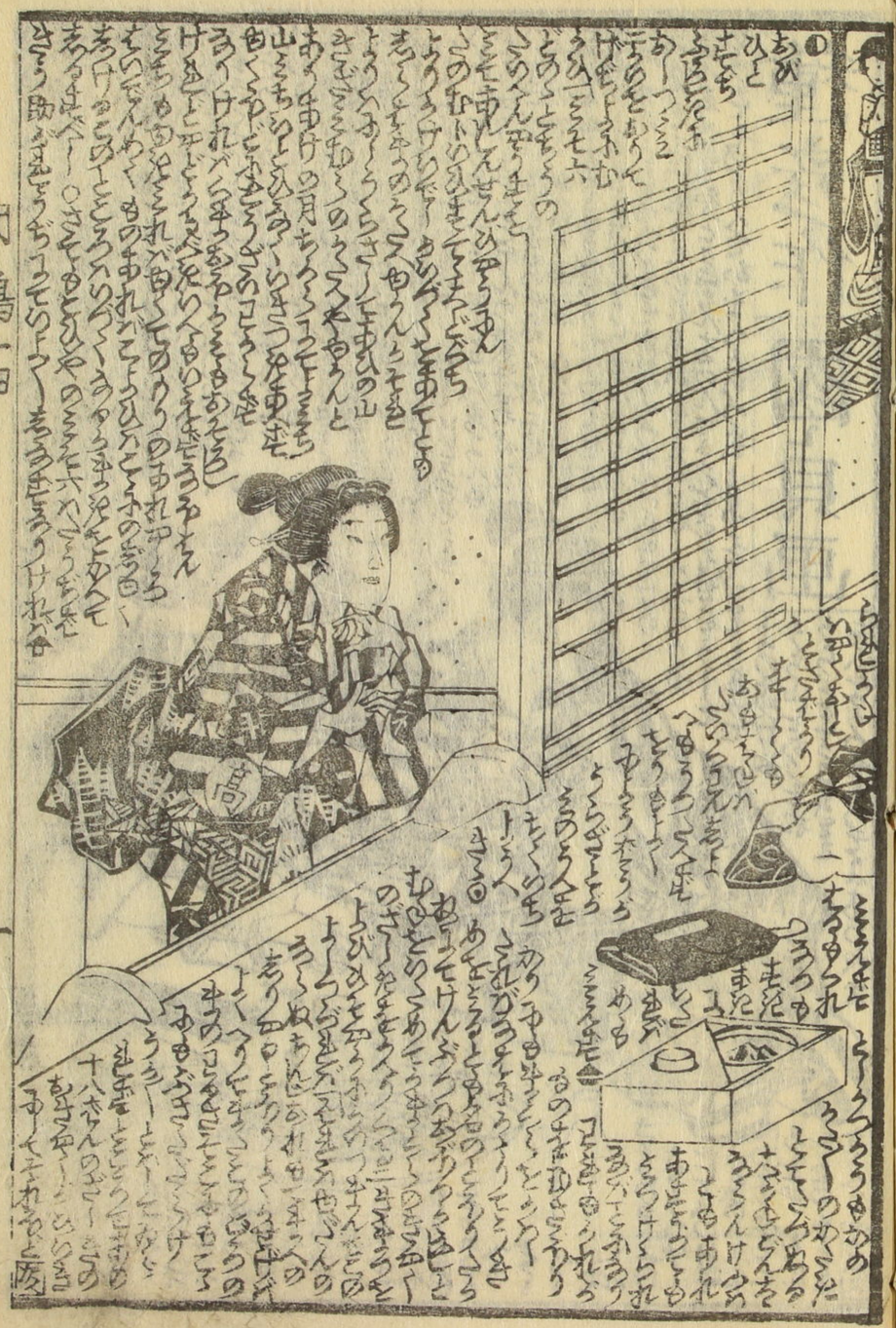
月鳥一四
黄金の秘籠
大坂二郎
浦里零落て花子となる
小織之助世を潜て高人安



富士遊覧双燈
雷村平安全







種彦作　國貞画

本家

實母散

こゝせんさんじ　すんちかくに切の妙せん
中橋酒井橋　日東堂孝輔製

鼠祠通夜譚

四編
八編
安政社

柳亭種彦作
梅蝶楼國貞画

厚化粧萬年嶋田

初篇
逆さ忠臣
辰春新板

為永春水作
梅蝶楼國貞画

這へ世に普く沙汰せらるゝ姐已阿百々傳中で見る和尚奥の悪霊
黄練芦田の家に仇敵人とて妻に忠臣孝女ゆゑて渠が妻手に苦と
あゞこまるる長きまで花いろ飛る宜く理の性とう草次紙まろん